

研究キーワード

新規化学物質 質量分析 ジオミクス

山本 敦史

准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL <https://pfos.jp>

E-Mail atyamamo@kankyo-u.ac.jp

■主な担当科目

化学概論 化学実験 環境分析化学特論

■研究者略歴

1993 (平成 5) 年3月	鳥取県立鳥取西高等学校卒業
1997 (平成 9) 年3月	九州大学理学部化学科卒業
1999 (平成11) 年3月	九州大学大学院理学研究科化学専攻修了
1999 (平成11) 年4月	ユニチカ株式会社
2000 (平成12) 年4月	大阪市立環境科学研究所
2014 (平成26) 年3月	関西大学大学院理工学研究科博士課程修了, 博士 (工学)
2016 (平成28) 年4月	公立鳥取環境大学環境学部講師
2018 (平成30) 年4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 大学院環境経営研究科 環境学専攻 准教授
2023 (令和 5) 年8月	大阪大学大学院理学研究科附属フォアフロント研究センター招へい准教授

■取得学位

博士 (工学) (関西大学)

■専門分野

分析化学, 質量分析

■現在の研究テーマ

- ・環境中残留性汚染物質の分析, 生体影響評価
- ・暮らしと健康 蚊に 蚊 蚊 蚊

■研究等活動

【報文・総説・解説】(2022 年以降)

- ・環境リスク物質の微量定量と液体クロマトグラフィータンデム質量分析 . 日本質量分析学会誌, 72巻, 58-64 (2024), doi: 10.5702/massspec.24-133
- ・Fragmentation Consideration Using Amidoamine Oxide Homologs (共著), Mass Spectrom. 13, A0158 (2024), doi: 10.5702/massspectrometry.A0158
- ・Heat-treated and/or lysozyme-treated Enterococcus faecalis (FK-23) improves the progression of renal disease in a unilateral ischemia-, reperfusion injury rat model. (共著) J. Clin. Biochem. Nutr. 75, 78-89 (2024), doi: 10.3164/jcbn.24-29
- ・マスペクトルのannotation (1): 異性体のInChIとSMILES. (共著) 日本質量分析学会誌, 71巻 149-152 (2023), doi: 10.5702/massspec.S23-51
- ・Quantitation of guanidine derivatives as representative persistent and mobile organic compounds in water: Method development. (共著) Anal Bioanal Chem, 415, 1953-1965 (2023), doi: 10.1007/s00216-023-04613-x
- ・Amidoamine Oxide Surfactants as Low Molecular Weight Hydrogelators: Effect of Methylene Chain Length on Aggregate Structure and Rheological Behavior. (共著) Gels, 9, 261 (2023), doi: 10.3390/gels9030261
- ・A study of chemical substances migrated from plastic tableware to evaluate the food safety for pets. (共著) Mass Spectrometry, 12, A0119 (2023), doi: 10.5702/massspectrometry, A0119

2021 年以前含めた全体は以下に掲載

<https://www.webofscience.com/wos/author/record/C-8211-2012>

【学会・研究会】(2022 年以降)

- ・有機ハロゲン系環境汚染物質分析. プラズマ分光分析研究会第123回講演会 (広島市, 2024年)
- ・Quality control of non-target analysis using the same method of mass spectrometer. (共著) 25th International Mass Spectrometry Conference. (メルボルン, 2024年)
- ・Mass Spectrometry and Emerging Contaminants in Japan. Bilateral meeting between CMSS and MSSJ. (つくば, 2024年)
- ・環境データから見る難分解性有機フッ素化合物 PFASs による環境問題 これまでとこれから 大阪工研協会第48回分析展と講演会 (大阪市, 2024年)
- ・Persistent and mobile compounds (PMOCs) guanidine derivatives. Environmental Occurrence and their disinfection byproduct. (共著) アジアオセアニア質量分析学会 (韓国済州島: 2023年)
- ・GC x GC で可視化される化学反応槽としての電子たばこ (共著) 第31回環境化学討論会 (徳島: 2023年)
- ・高度化する環境分析化学データの蓄積と共有 第30回環境化学討論会 (富山: 2022年)
- ・同一測定内のデータ整合性にも着目したマスペクトル解析 第3回日本質量分析学会スペクトルデータ部会シンポジウム (オンライン: 2022年)

【教科書・学術図書】

- ・PFASの規制動向と対応技術 (共著) (技術情報協会: 2024年)
- ・質量分析活用スタンダード (共著) (羊土社: 2023年)
- ・機器分析ハンドブック 1 有機・分光分析編 (共著) (化学同人: 2020年)

■社会貢献活動

- ・鳥取県分析技術勉強会世話人
- ・鳥取県環境影響評価審査会委員 (2018年 ~)
- ・日本質量分析学会理事 (2019年 ~ 2023年, 2025年 ~)
- ・日本質量分析学会講習会企画委員会委員長 (2019年 ~ 2020年)
- ・日本環境化学会評議員 (2019年 ~ 2025年)
- ・環境省環境調査研修所研修支援教材講師 (2024年 ~)